東京　明治十七年九月十二日　金曜日　第七百六十二號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○太政官達第七十五號　官省院廳府縣

明治十二年(十二月)第五十四號達中央衛生會職制第一項左ノ通改正候條此旨相達候事

明治十七年九月十一日　太政大臣　三條實美

一本會ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ編成ス

會長　一人　副會長　一人

委員　醫員(十八)化學家(三人)工學家(三人)衛生局長警保局長、土木局長、參事院議官若クハ議官補(二人)警視總監、東京府知事、內務書記官(三人)

臨時委員　無定員

○陸軍省達甲第三拾九號　府縣　沖繩根室札幌ノ三縣ヲ除ク

徵兵事務條例第二十三條及第三十條ニ據リ郡區長ハ壯丁名簿及ヒ壯丁異動名簿ヲ製シ各自屆書人別表其他書類ト共ニ郡區駐在官ニ送付可致儀ニ候處當分之內壯丁名簿壯丁異動名簿ノミ駐在官ニ送致シ該官ニ於テハ其名簿ノ卷末ニ署名押印シ郡區長ニ返付スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

明治十七年九月六日　陸軍卿　西郷從道

賞勳敍任

○明治十七年八月廿日

宮內省二等出仕兼內藏頭皇太后宮太夫從四位勳三等　杉　孫七郎

伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタル、グランコルドーネ、デル、オルヂ子、デラ、コロンナ、ディタリヤ勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許候事

太政官大書記官從五位勳五等　石橋　政方

伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタル、コンマンダトレ、デル、オルヂ子、デラ、コロンナ、ディタリヤ勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許候事

○明治十七年三月十日

敍從六位　正七位勳六等　小坂　千尋

○明治十七年八月廿三日

任步兵大尉　憲兵大尉正七位勳四等　上利　勝世

任憲兵少尉　步兵少尉正八位勳七等　片岡　信正

○明治十七年九月十日

任大藏一等技師　大藏權大書記官正六位　一川　研三

時事新報

以テ人ヲ生カス可ク以テ人ヲ殺ス可シ

交通法ノ文明社會ニ大切ナルハ今更喋々スルヲ須タズ弱者ヲシテ強ナラシメ、貧者ヲシテ富ヲ致サシメ、愚人ニシテ能ク智者ノ事ヲ行ヒ、智人ニシテ愚ヲ働クモ交通法ヲ用ルノ巧拙ニ在テ存スルモノ多シ之ヲ要スルニ世運ノ盛衰、社會ノ治乱一切萬事皆交通法ニ依賴スルモノト云フモ可ナリ然リト雖ヒ凡ソ天下ノ事物其効力ノ大ナルモノハ其害モ亦恐ル可キモノアリ藥品ニテ云ヘバ阿片剤ノ以テ人ヲ生カス可ク又殺ス可キガ如シ交通ノ法其利甚ダ利ナリト雖ヒ之ヲ利用シテ社會ノ益ヲ爲シ又害ヲ爲スハ唯其人ニ在テ存スルガ故ニ惡人ノ手ニ渡セバ惡ヲ爲ス可ク善人ノ用ニ供スレバ善ヲ爲ス可シ而シテ社會ハ善惡雜居ノ社會ニシテ交通ノ用法ニ制限アラザレバ今ノ至便ノ法ヲ以テ如何ナル害惡ヲ致ス可キヤ測ル可ラズ其惡ハ猶カノ阿片剤ノ用法ニ制限ナクシテ往々治療ヲ誤リ甚シキハ人ヲ毒殺スルガ如キ慘状ヲ見ルモノヽ如シ左レバ今日ノ社會ニ在ル者ハ交通法ヲ利用シテ自カラ利シ又他ヲ利スルコトヲ勉ルノミナラズ之ヲ利スルト同時ニ其害ヲ避ルノ工風モ亦甚ダ緊要ナリトス即チ世ニ[illegible]ナルモノアルヲ知ルカラニハ唯其効能ノ粋ヲ取ルノミニシテ中毒ノ害ヲ避ルガタメニハ最モ注意ヲ要スルコト知ル可シ昔ノ醫學士ハ阿片ノ効力ヲ說キ其利害兩用ノ銳キヲ雙及刀ニ喩ヘタリ我輩ハ今日交通法ノ利害ヲ說クニモ亦コノ喩ヲ借用セントス欲スルモノナリ交通ノ法コレヲ利用スレバ其功德菩薩ノ如ク其害惡夜叉ノ如シト云テ可ナラン

前記ノ論旨ハ古今ノ人事ニ適用シテ違フコトナキモノナレヒ尙讀者ノ了解ヲ便ニセンガ爲ニ今日ノ實際ニ當テ、之ヲ說カン方今我日本國中ノ注意ヲ引テ間接直接ニ利害ヲ覺ヘ、今ノ方向ノタメ、後ノ覺悟ノタメニ片時モ等閑ニス可ラザルモノハ佛清ノ事件ニシテ朝ニ夕ニ其事情ヲ知ルノ方便ハ唯電信ノ交通アルノミ即チ天下ノ耳目精神ハ西來ノ電報ニ由テ左右進退シ隨テ商賣上有形ノ利害モ之ガ爲ニ浮沈シ、一浮一沈其間ニ髮ヲ容レズ電信交通ノ遲速瞬刻ノ前後ヲ以テ大利害ニ關スルモノ多シ交通法ノ効用ヲ見ルニ適切ナル時節ト云フ可シ斯ル時節ニ當テハ單ニ交通法ヲ利用シテ自他ノ利益ヲ保護スルノミナラズ害ヲ防クノ事モ亦甚ダ大切ナルモノニシテ一度ビ電報ニ誤ラルヽトキハ復タ挽回ス可ラザルノ害ヲ被ルコトアル可シ例ヘバ本月初ヨリ三日四日ノ頃マデ銀貨ノ相場ハ凡ソ一圓五錢少餘ニシテ曾テ變動ナカリシ者ガ六日ニ至リ東京市中ニ說ヲ作リ支那ヨリ電報到來シタリトテ其旨ニ「クルベー提督ハ道台の請に應じ更に一段の談判を開かんとす、北京在留各國公使ハ平和の談判を爲すべき旨を清廷に勸告したり云々」ノ次第ヲ公布シ此報ニ依レバ佛清事件モ干戈ヲ收ルニ至ル可シト傳ヘ又傳ヘテ遂ニハ東京二三ノ新聞紙ニマデ掲載シタレバ兼テ交通ニ迂濶ナル市民ハ一時ニ之ヲ信シ其影響ハ忽チ銀貨ノ相場ニ及ボシテ五錢少餘ノモノガ六日ハ頓ニ下落シテ四錢以下ニ下リ尙弱氣ヲ現ハシタリト云フ抑モ此訛傳ハ何者ノ作ナルヤ支那ヨリ斯ル電報ノ到來セザルハ明白ニ探知シ得タレヒ其作者ノ所在ハ之ヲ知ルニ由ナシ依テ我輩ガ臆測邪推ヲ下セバ何レニモ投機商ノ手ニ成リテ一時銀米等ノ相場ヲ僥倖シタルモノナランカト斷定セザルヲ得ズ如何トナレバ訛傳ヲ傳ルニモ多少雜費ノタメニ資金ナカル可ラズ如何ニ好事家ナレバトテ心ヲ勞シ金ヲ費シテ無益有害ノ戲ヲ爲ス者ハナカル可シト思ヘバナリ依テ臆測ノ如ク相場師ノ作トシテ視レバ其利害決シテ少小ナラズ假ニ其發起者ガ三日四日ノ頃銀貨一圓ニ付一圓五錢ノ約束ヲ以テ三十萬圓ヲ賣リ一兩日ヲ經テ四錢ニ下レバ一錢ノ差、三十萬圓ノ高ニテ三千圓ヲ掠メ去ル可シ或ハ又四錢ニ下リタル日ニ三十萬圓ヲ買フテ一兩日ヲ過ギ訛傳果シテ訛ナルノ實ヲ現ハシ本ノ五錢ニ復スルトキモ同樣ノ利益ヲ見ル可シ何レニモ一報ノ訛傳三千圓ノ金ヲ得失セシメテ失者ハ永遠無窮ノ損害ヲ被リタル者ナリト云ハザルヲ得ズ方今商況不景氣ノタメ銀貨ノ相場モ自カラ活潑ナラザレバコソ三千圓ノ得失ニ止マルナレヒ若シモ兩三年前ノ景氣ニテ四十錢五十錢ト云フガ如キ相場ノ時節ナラバ和戰ノ一報ヨリ一二十錢ヲ動カシ三千圓ノ代リニ三萬圓又六萬圓ノ勝敗ヲ決シタルコトナラン商賣社會ノ騷動ト云フ可シ畢竟其本ヲ尋レバ投機奸商ノ奸惡ム可キハ勿論ナレヒ亦其失敗者ノ心掛ケモ宜シカラズ今ノ文明ノ世ニ居リ今ノ交通ノ利器アルヲ知リナガラ自家ニ此利器ヲ利用セザルノミカ他人ノ之ヲ利用スル景況ニモ注意セズ、坐シテ報知ノ到來ヲ待チ其報知ノマヽニ之ヲ信ズルノミニシテ本來時勢ノ大体ヲ知ラズ、斯ル電報ノ到來ス可キ時機ナルヤ否ヲ推考セズ、其電報ノ出處ヲ問ハズ、其報道者ノ性質ヲ詳ニセズ道ニ聞テ途ニ說クヲ聞キ、之ニ依賴シテ大切ナル財產ヲ賭シ、五錢ニテ賣ラントスル云ヘバ之ヲ買ヒ四錢ニテ買ハント云ヘバ之ヲ賣リ兩三日ノ幻妖其馬脚ヲ現ハスニ至テ茫然タルガ如キハ文明社會ノ商人ニ非ズ醫學進步スレバ劇藥ノ用法モ亦進步シテ能ク人ヲ利シ又能ク人ヲ害ス又或ハ之ヲ宜シカラザル目的ニ利用シテ人命ヲ傷フコモナキニ非ザレバ苟モ身ヲ重ンズル者ハ常ニ注意シテ服用ヲ愼マザル可ラズ今回支那電報ノ訛傳果シテ相場師ノ作ニ出テ、實効ヲ奏シ其幻妖ニ瞞着セラレテ財ヲ失フタル者モアラバ我輩ハ其不幸ヲ憐ムノ傍ニ兼テ又其不注意ヲ咎メザルヲ得ズ蓋シ庸醫ニ身ヲ托シテ阿片ヲ服シ毒婦ニ欺カレテ「モルヒ子」ヲ呑ムガ如キハ此流ノ痴漢タル可キノミ

電報

○九月九日龍動發　日耳曼の砲艦は從前英領の喜望峯攻驅にて占領し居たりし亞弗利加南西海岸の地を零有しより

佛清事件

○上海吳淞局外地となる　佛清開戰中上海及び吳淞等の地ハ各國の協議を以て局外地と見做し戰爭の區域外に立たしむるとのことは先頃の我紙上にも揭げ置きしが其後上海在留の各國領事協議の末佛國にても之を至當のことと認め清國も又之に異議なかりしと見え去月廿七日上海の道台邵友濂より一篇の告示を出して其旨を上海人民に告け各國領事も亦各之を其國語に翻譯して居留人民に示したり今其告示の全文を左に揭ぐ

上海ハ五方人民ノ雜居スル地ニシテ流寓ノ民甚ダ多シ本年六月初旬(即チ我七月下旬)我國ト佛國トノ談判整ハズシテ人心疑懼スルニ因リ不逞ノ徒機ニ乘シテ害惡ヲ行ハンコトヲ慮リ日耳曼國總領事ハ當地在留各國領事ノ首位ニ在ル者ナルヲ以テ該領事ニ一書ヲ送リ各國領事ノ會議ヲ開キテ居留地ハ勿論、上海市中幷ニ近傍ノ土地ヲモ保護スル方法ヲ設ケ不法ノ徒アラハ兵力ヲ以テ之ヲ鎭壓スル方法ヲ協議センコトヲ請ヘリ爾來一月ノ間常ニ靜謐ノ有樣ナリシガ近日ニ至リテ又我國佛國ト將ニ吳淞ニ於テ開戰セントスル杯ノ風說アリ爲メニ商民等ハ相率ヰテ他所ニ遁避シ市場ノ貿易モ甚ダ不景氣ニシテ居民等ハ枕ヲ高クシテ安眠スルコトヲ得ス此皆不法ノ徒人民ヲ驚駭セシメ鬨ニ乘シテ盜奪ヲ行ハント欲スルニ因レリ夫レ上海ハ我國ニ於テ各國通商ノ中心タル地所ニシテ各國ノ船舶ガ此地ニ入ルハ唯吳淞口ニ由ルモノナレハ設令兩國交戰スルニ至ルモ決シテ吳淞ニ於テスルコトナシ現ニ日耳曼總領事ヨリ、佛國總領事「レヤイル」氏ノ來翰ヲ示サレタルヲ見ルニ佛

國ハ上海吳淞(記…
傍ト云ヘル字ア…
ヲ交ヘズ之ヲ中…
シト云ヘリ現今…
國ノ兵隊ヲ分遣…
ヲ爲シテ公安ヲ…
民ヲ保護スベ…
議シテ吳淞口ヨ…
ノ內外設ケ其餘…
定メタレバ若シ…
ノ手ニテ直ナ…
嚴刑ニ處スベ…
ハ亦之ヲ捕制シ…
此告示ヲ出シテ…
ナク安堵シテ共…

○長江の兵備　清…
江沿岸の諸港を…
なる吳淞ハ多く…
等を建設して專ら…
艦が楊子江の水…
戒愼を抱き佛艦…
たる上ハ北向して…
らんとて先頃吳淞…
流へ送り該江に…
の變に備ふるよ…
人を雇ひたりと…
んと種々に防禦…
妨くるの說を立て…
は臨時に其場所…
去れば水先き人…
云ふもれある由

○水軍招募に示…
駐して守禦を助…
所に據れば先頃…
し凡ろ外洋海面…
して若し能く過…
に來て力を致さ…
官廳にて賞を揭…
宥されく來り投…
自から砲臺に至…
り勉めて善良を…
用もべしと洋僕…

○クルベー提督…
てクルベー提督…
へ送りたる書翰…
ハ昨日午後二時…
丸艘と外に魔艇…
其砲擊を止め…
きを以て我砲…
主名、死する…